

## 2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	建築人間工学小委員会	主 査 名：吉村 英 祐 就任年月：2004 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服 部 岑 生 主 査 名：
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築設計の基本となる人間の各部寸法、動作領域、心理・生理、行動能力、安全・安心等について広く英知を集め、安全・安心・快適な生活空間のあり方を考究する。</li> <li>・2004 年度：日常生活事故を科学的な視点から考究し、新たな知見の蓄積をはかる。</li> <li>・2005 年度：建築人間工学の視点から日常安全の水準のあり方を検討する。</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：あり 主査：吉村英祐(大阪大学) 幹事：渡辺秀俊(文化女子大学) 幹事：森 一彦(大阪市立大学) 石神 忍(活水女子短期大学) 古賀紀江(前橋工科大学) 後藤義明(積水ハウス) 齋藤芳徳(川崎医療福祉大学) 嶋田 拓(明野設備研究所) 白石光昭(小山工業高等専門学校) 建部謙治(愛知工業大学) 武田雄二(愛知産業大学) 田中直人(摂南大学) 布田 健(建築研究所) 林田和人(早稲田大学) 増子順一(日本大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	建築人間工学基礎資料集整備 WG：建築人間工学に関する文献・論文等の基礎資料のデータベース化、最近の発表論文のテーマと研究者リストの作成。	
2005 年度予算	317,000 円	ホームページ公開の有無：あり 委員会 HP アドレス： <a href="http://www.kwassui.ac.jp/~ap/aij/index.htm">http://www.kwassui.ac.jp/~ap/aij/index.htm</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. なし
講習会	1. なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 44 回建築人間工学研究会 日常生活を科学する - 浴室内の事故 - (2005.5.19) 資料名：日常生活を科学する - 浴室内の事故 - 参加者数 43 名 2. 第 45 回建築人間工学研究会 群集事故の人間工学 - 事例を教訓として - (2005.7.25) 資料名：群集事故の人間工学 - 事例を教訓として - 参加者数 45 名
大会研究集会	1. なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 研究会開催：当初の計画通り研究会を 2 回開催した。いずれも 40 名以上の参加があり、活発な議論が交わされ、参加者にも好評であった。決算はいずれも黒字である。なお、第 45 回はマスコミ取材を受けた。[達成度 120%] 2. 小委員会開催：予定通り 6 回開催。研究会テーマの設定では、第 45~47 回でトピックのテーマを扱い、第 48~50 回で過去の小委員会活動や建築人間工学研究から将来の展開を考えるとといった内容で研究会を進めていくことが決められ、当初の中期目標がほぼ達成された。[達成度 90%見込み] 3. 建築人間工学基礎資料集整備 WG の目標は、残りの期間で 90%達成を目標とする。
委員会活動の問題点・課題	1. 研究会の成果を広く一般に公表し社会に還元する手段として、また研究会の記録を残す場として、HP の充実を図るべきである。 2. WG の活動目標を期間内に無理なく実施可能なものとするべきである。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。